Go-Ahead ❶ 10 年研　第１回　開講式 アンケートの感想から

今年、豊能地区で 10 年経験者研修を受講される先生は、合計 107 人。豊能地区３市２町の小・中学校で中核を担っておられる先生方が一堂に会する訳ですから、私たちも身が引きしまる思いです。さて、この節目の研修の開講式は、奈良学園大学、人間教育学部鎌田首治朗教授をお迎えしました。

「『人間』を育てる」、まさにその通りだと思いました。これまでの経験で、４月の初めの職員会議で「どんな子どもをそだてていくのか」ということを本音で話せる学校は大変な子どもが多くとも、みんなで子どもを見守り指導できる学校でした。そうでない、きまりばかりの学校は、形だけ（表面上）が育つ子どもが多い学校でした。今の学校でも、本気で話せるように投げかけていきたいと思います。「『正解』はない」自分もいつも考えています。私は「絶対はない」と思っていますが、子どもへの愛情と、今の自分にできることをやりきるということをこれからも常に持ち続けたいと思いました。

鎌田先生の経験と研究に裏打ちされた熱い言葉によって、「そうそう！」と共感したり、自分の考えを明確に言葉にしてもらったりした方も多かったようです。「教育に〇〇はない」絶対？、終点？、これにも正解はないかもしれません。自分のやっていることに悩みながら日々自問自答している人も多く、「教育に『正解』はない」という鎌田先生の回答に救われたという人もたくさんおられました。

私は今二校目の学校で働いていますが、初任校での立場との違いは常に感じています。初任校で先輩から、「転勤するまでに自分の専門教科を一つ持ちなさい」と常にアドバイスして頂きました。しかし、自分は後輩に同様のことを言えずにいます。皆一生懸命子どもたちと関わっているのですが、その部分に時間を取りすぎて、教材研修や教科の研究が不足しているのではないかと感じることが多くあるのです。今日のお話を聞きながら自分の不足していることの多さに悶々としてしまいました。

自分と向きあうことから逃げたくなりますが、向き合うことで自分を理解しそれが他者を理解することにつながるということを学びました。また「教師の心と頭の背丈以上のことは、子どもに伝えられない」ということから自分自身をもっと磨いていこうと思いました。ご講義ありがとうございました。

自分の足らずを知り研鑽をはじめるのに、遅すぎるということはありません。お話を聞きながら自己との対話をすすめて頂いていたようで、教職員としての自分を再発見した人も多かったようです。「教師をめざしたころの『志』を思い出した」「初任研を思い出した」「初心を思い出した」という感想もありました。「いまさら当たり前のことを言われても」という感想もいただいていますが、今だからこそ公教育に携わる人間としての根本に立ち返り、この先 10 年を考えることはとても大切だと思います。

今日は本当にありがとうございました。10 年研修は、正直、子どもをおいて出にくく、回数も多いので…と思っておりました。しかし、今日の鎌田先生の話を伺って「志」の大切さを改めて実感しました。「教師は学びを開く教材」という言葉が心に大きく残りました。この研修を通して、しっかり学んでいきたいです。

去年の初任者のエピソードに、こんなことがありました。後ろ髪をひかれながら初任研に出た翌日、代わりにクラスを見てくれていた先生が、自分の留守中、がんばっていたクラスの姿を伝えてくれたそうです。その報告が嬉しくて、子どもたちにその気持ちを伝えたところ、子どもたちも喜んでくれたそうです。その後は安心して研修に参加することができるようになり、子どもたちもそんな先生を応援してくれるようになったそうです。ここには、子どもたちのがんばりを見逃さない同僚や先輩がいて、信頼関係で結ばれた担任と子どもたちの息遣いを感じます。確かに、子どもたちをおいて学校を出てくるのは心配なのですが、このようなクラスや学校をめざすことも素敵なのではないでしょうか。

皆さんは豊能地区の教育のエンジンです。一緒にがんばりましょう。